

第2回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会次第

平成30年8月20日（月）18時30分～

本庁舎3階 第一会議室

- 1 シティプロモーションについて
- 2 小金井市まち・ひと・しごと総合戦略」施策の効果検証について
- 3 次回の開催日について



# 小金井市シティプロモーション基本方針 (たたき台)

# 目次

1	シティプロモーションとは	
(1)	策定の背景	1
(2)	策定の目的	1
(3)	基本方針の位置付け	2
2	本市の現状と課題	
(1)	人口動態	3
(2)	転入・転出の状況	3
(3)	定住意向	4
3	基本的な考え方	
(1)	ターゲット(誰に)	5
(2)	内容(何を)	5
(3)	発信方法(どのように)	6
4	推進体制	
(1)	庁内の推進体制	7
(2)	観光大使制度のさらなる活用	8
(3)	関係団体との連携	8
(4)	市民との連携	8
(5)	今後の推進体制	10
5	資料編	
	※ アンケート、庁内調査等実施後に作成	
(1)	「平成30年度 小金井市市民意向調査」集計結果(抜粋)	
(2)	「学生アンケート」集計結果(抜粋)	
(3)	PR資源	

# 1 シティプロモーションとは

## (1) 策定の背景

本市は、交通アクセスの良さから通勤・通学するには便利であり、閑静な住環境、豊かな自然環境を背景にベッドタウンとして人口を伸ばしてきました。全国的に少子高齢化が進み、人口減少局面に入中、本市の人口は平成29年10月に12万人を超え、現在でも微増傾向にありますが、近い将来、人口減少が見込まれ、少子高齢化が進んでいくことが予想されているところです。

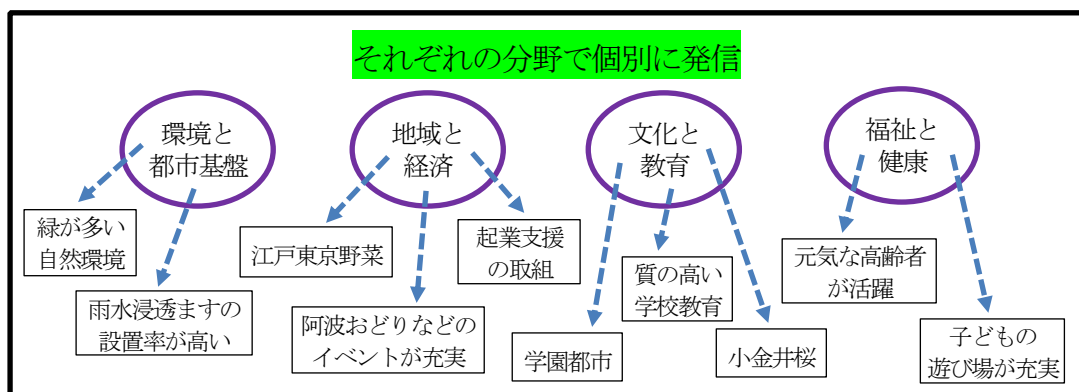
少子高齢化により医療・福祉などの社会保障関連経費は増加し、生産年齢人口の減少により地域経済や税収は縮小され、地域活力が低下してしまうことが強く懸念されます。今後も持続可能なまちとするためには、交流人口の増加を図り、定住化を促進させる取組みとして、本市の魅力を市内外に発信する、シティプロモーションがより重要となってきます。

## (2) 策定の目的

本市のシティプロモーションは、第4次小金井市基本構想・後期基本計画及び小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、市内外へ地域の魅力を積極的に発信することに取り組んできました。しかしながら、全国的に人口減少局面に入中、数ある自治体の中から選ばれるまちとなるためには、一つ一つの魅力を個別に発信していただくだけでなく、小金井市としてPRしたい方向性を定め、その方向性に従って繋がりを持つような発信をしていくことがより効果的です。

そこで、シティプロモーションを戦略的・継続的に推進することを目的として、小金井市シティプロモーション基本方針（以下「基本方針」という。）を策定することとしました。

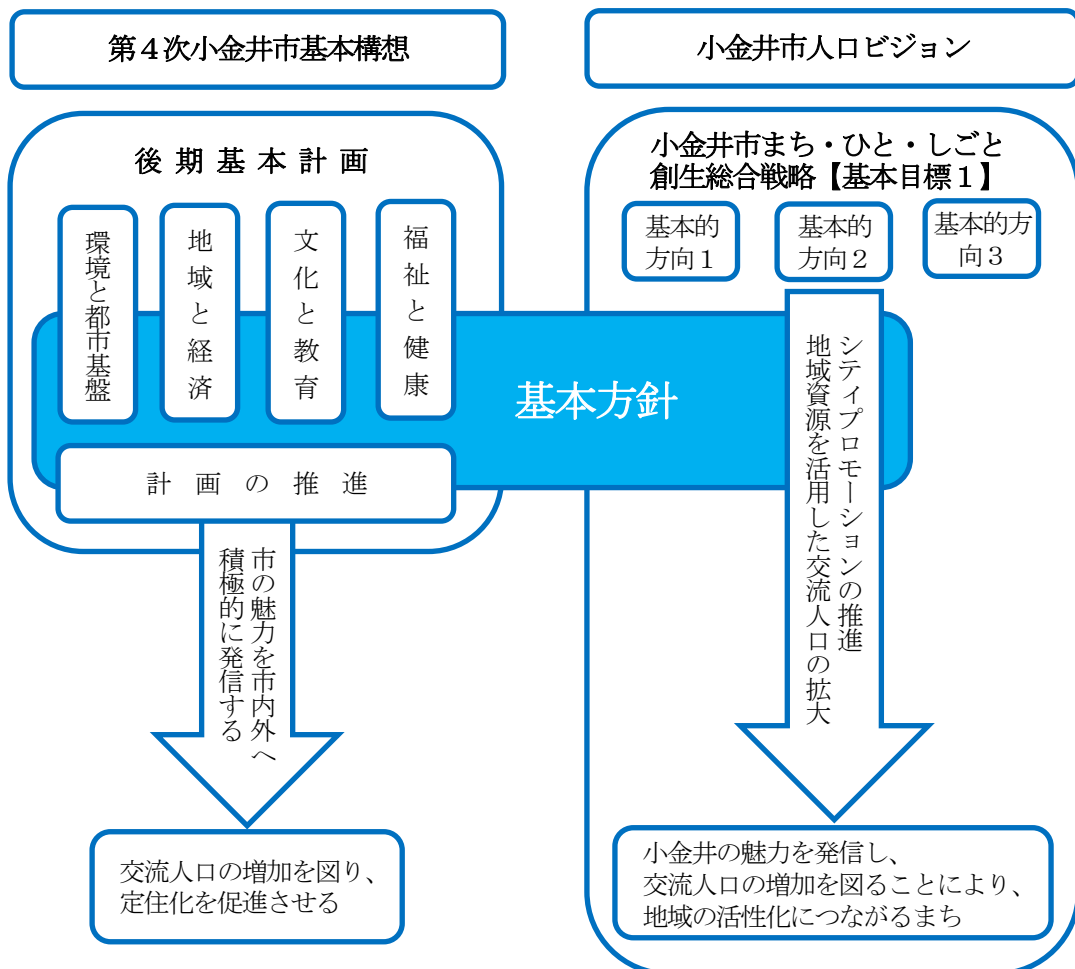
### これまでのシティプロモーション



### (3) 基本方針の位置付け

第4次小金井市基本構想・後期基本計画では、4つの柱を推進するための「計画の推進」における主な取組の一つである「広報活動の充実」の中で、「市の魅力を市内外へ積極的に発信するシティプロモーションに取り組みます。」としています。また、小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、「小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち」を基本目標の一つに掲げており、それに向けた基本的方向として、「小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進」をあげています。

この基本方針は、第4次小金井市基本構想・後期基本計画の4つの柱と横断的に関わるとともに、小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる基本目標1に向けた基本的方向2に基づく施策の進め方を具体的に示すものと位置付け、シティプロモーションを進めていく上で必要な現状と課題の整理を行い、「誰に」（P. 5 ターゲット）、「何を」（P. 5 内容）、「どのように」（P. 6 発信方法）の主に3つの視点について示していきます。



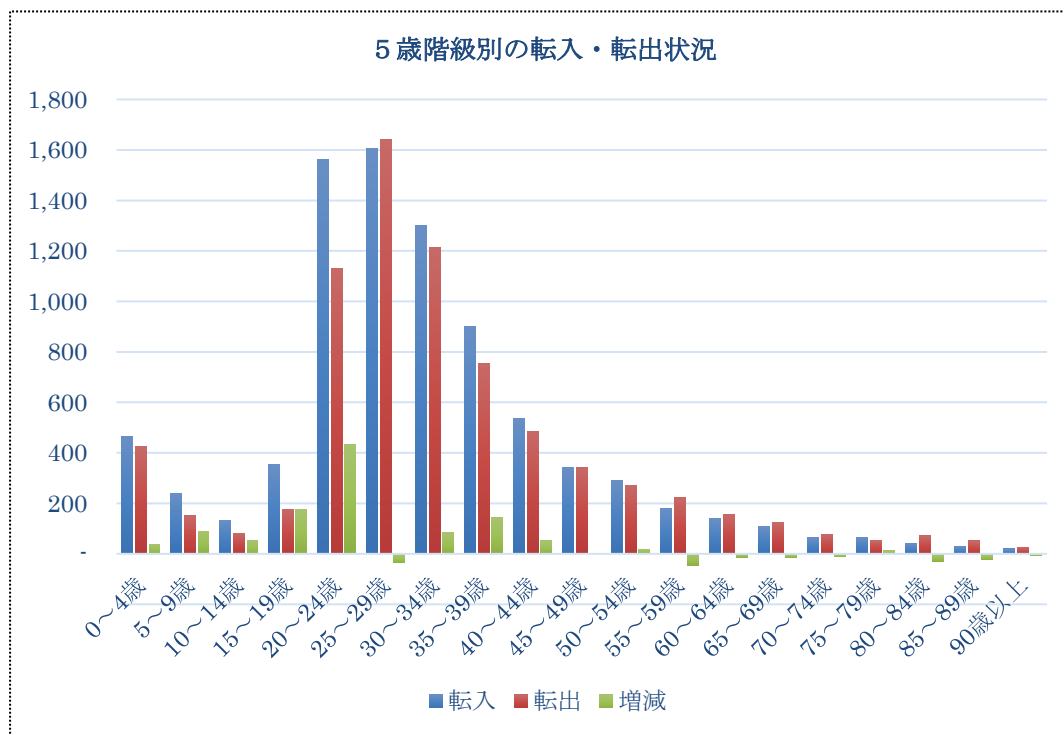
## 2 本市の現状と課題

### (1) 人口動態

本市の人口は過去10年においても増加していますが、過去20年間においては老年人口の増加が顕著で、平成27年時点での高齢化率は約20%となっています。また、将来人口についての3つのパターンの推計比較では、国立人口問題・社会保障研究所の推計では平成32年に122,758人、日本創生会議の推計では平成42年に124,459人、小金井市第4次基本構想における推計では平成35年に120,012人となり、いずれもそれをピークに減少するとしています。(小金井市人口ビジョンより)

### (2) 転入・転出の状況

転入の状況を年齢別に見ると、20～34歳の転入が多いことが特徴です。特に20～24歳においては大きく転入超過になっています。一方、転出の状況を見ると25～29歳の転出が最も多く、多くの転入者がいるにも関わらず、それを上回る転出者がいます。



出典：東京都住民基本台帳移動報告（平成28年）

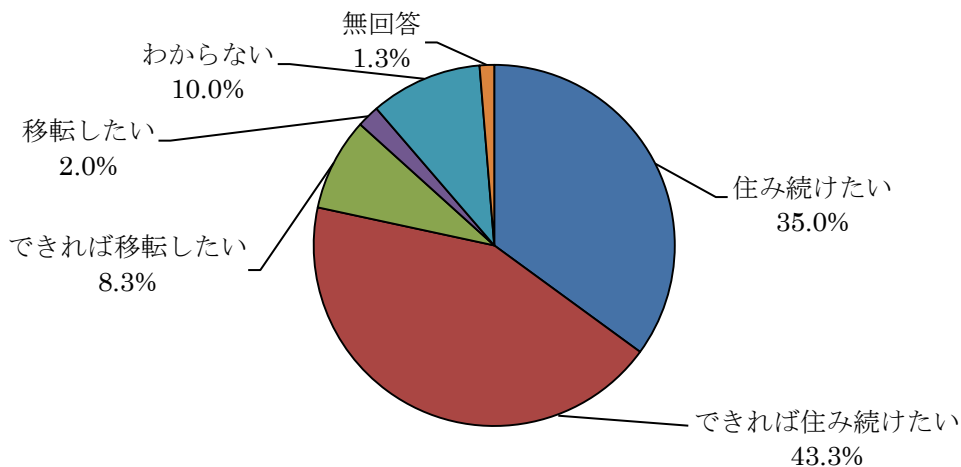
### (3) 定住意向

対象者の異なるそれぞれの調査結果から市民の定住意向を見ると、18歳以上の市民を対象とした調査ではおよそ8割弱が定住の意向を示していますが、課題にあげた若年層を対象とした調査では6割弱となっています。本市と連携協力に関する協定を締結している大学・専門学校（6校）の学生を対象とした調査では、市内在住の学生の○割が定住意向を示し、市外在住の学生の○割が転入意向を示しています。

#### 【調査結果】

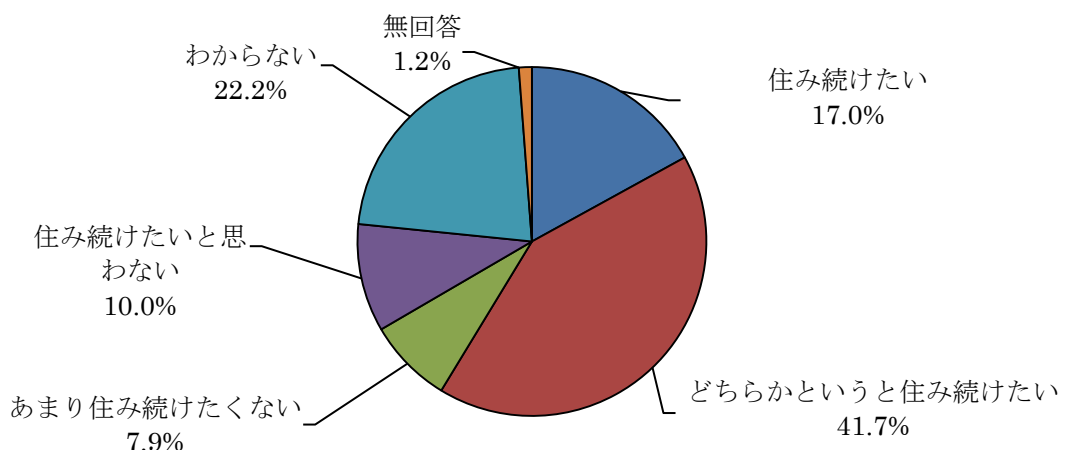
##### ア 市長への手紙 ※ H30 市民意向調査後差し替え

（18歳以上の市民2,000人を対象 [回答数540]、平成29年度実施）



##### イ 小金井市人口ビジョン及び小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定における市民意識調査 ※ 学生アンケート実施後差し替え

（16歳から39歳の市民2,000人を対象 [回答数482]、平成27年度実施）





### 3 基本的な考え方

#### (1) ターゲット（誰に）

2の「(2) 転入・転出の状況」で示した表で分かるとおり、25～29歳では転出者が転入者を上回っています。また、転入・転出ともに、この年代を境に減少する傾向があります。2の「(3) 定住意向」で示した調査結果からは、実施年度は違うものの、若年層のほうが定住意向は低い結果となっていました。

これらのことから、若年層、特に20歳代後半をターゲットに、転入の維持と転出の抑制を図ることが有効と考えます。本市及び本市の周辺には大学等が多数ありますので、学生等に、卒業後小金井市に住み続けてもらうこともターゲットとして効果的と考えます。

#### (2) 内容（何を） ※ 市民意向調査・学生アンケート実施後差し替え

前出の調査アにおける、第4次小金井市基本構想・後期基本計画の4つの柱に関する29項目についての満足度調査では、「みどりと水」の満足度が最も高く、次いで「住宅・住環境」、「道路・河川」が高くなっており、上位3つはいずれも「みどりあふれる快適で人にやさしいまち（環境と都市基盤）」に関するものでした。また、同調査において、「住み続けたい」または「できれば住み続けたい」と回答した方の理由には「緑が多い」や「静か」など自然環境に関するものが多く挙げられており、「住み慣れている」や「家を購入したから」などの消極的な理由を除くと、「生活が便利」や「交通の便がよい」など利便性に関するものが次いで挙げられていました。また、これら自然環境と利便性のうち、どちらか一方ではなく両方挙げる回答が多くあったことも特徴と言えます。

他方、前出の調査イにおいて、住み続けたいまちの要素を尋ねた結果としては、「街が安全・安心である」が最も多く、次いで「買物などの日常生活が便利である」、「みどり・水辺などの自然環境がよい」が多く挙げられました。

これらの結果から、豊かな自然環境と生活の利便性がほどよく共存していることを本市の特徴としてPRすると同時に、安全・安心に係る取り組みに係る情報を積極的に周知していくことが、転出の抑制や転入の促進につながってくるものと考えます。 ※ アンケートの結果により、子育て環境、学園都市なども触れられれば盛り込む。

### (3) 発信方法（どのように）

現在本市が行っている情報発信の方法は、市報、ホームページ、ツイッターの主に3つのツールがあり、これに加え必要に応じてパブリシティを行っています。それぞれの特徴を活かして使い分け、あるいは組み合わせて発信します。

市報は、市内全家庭・全事業所に配布されており、すべての市民に情報を発信することができます。しかし、紙面が限られていることから、すべてのことを詳細に伝えることはできません。また、発行は月に2回のみであり、編集に1か月程度要することから、突発的な情報の発信には対応できません。

ホームページは、市内のみでなく、市外へも広く情報発信ができます。また、字数制限に縛られることなく、詳しく伝えることができ、写真や表などの活用も可能です。情報を随時更新したり追加したりできることも利点です。

ツイッターは、ホームページとは異なり、フォロワーに対して直接届けることができ、フォロワーの興味をひく内容であれば拡散効果も期待できます。ただし、字数制限があるので、詳細はホームページで補足することを前提とします。写真などを用いて視覚的に訴えたり、ハッシュタグを活用して閲覧促したりする工夫も必要です。また、同じ内容に関する情報を複数回発信できることも特徴です。

パブリシティは、新聞やテレビを通じて広く世間に情報を発信する方法です。平成28年度にリリースした46件（定例的・形式的なもの等は除く）のうち、取り上げられたものは9件、平成29年度にリリースした31件のうち、取り上げられたものは5件で、記者会見等でPRしたものを含めるといずれの年も十数件が報道されており、報道された場合は、市内外を問わず広く情報発信され、また、報道機関を通じることにより信頼度・関心度を高める効果が期待できます。

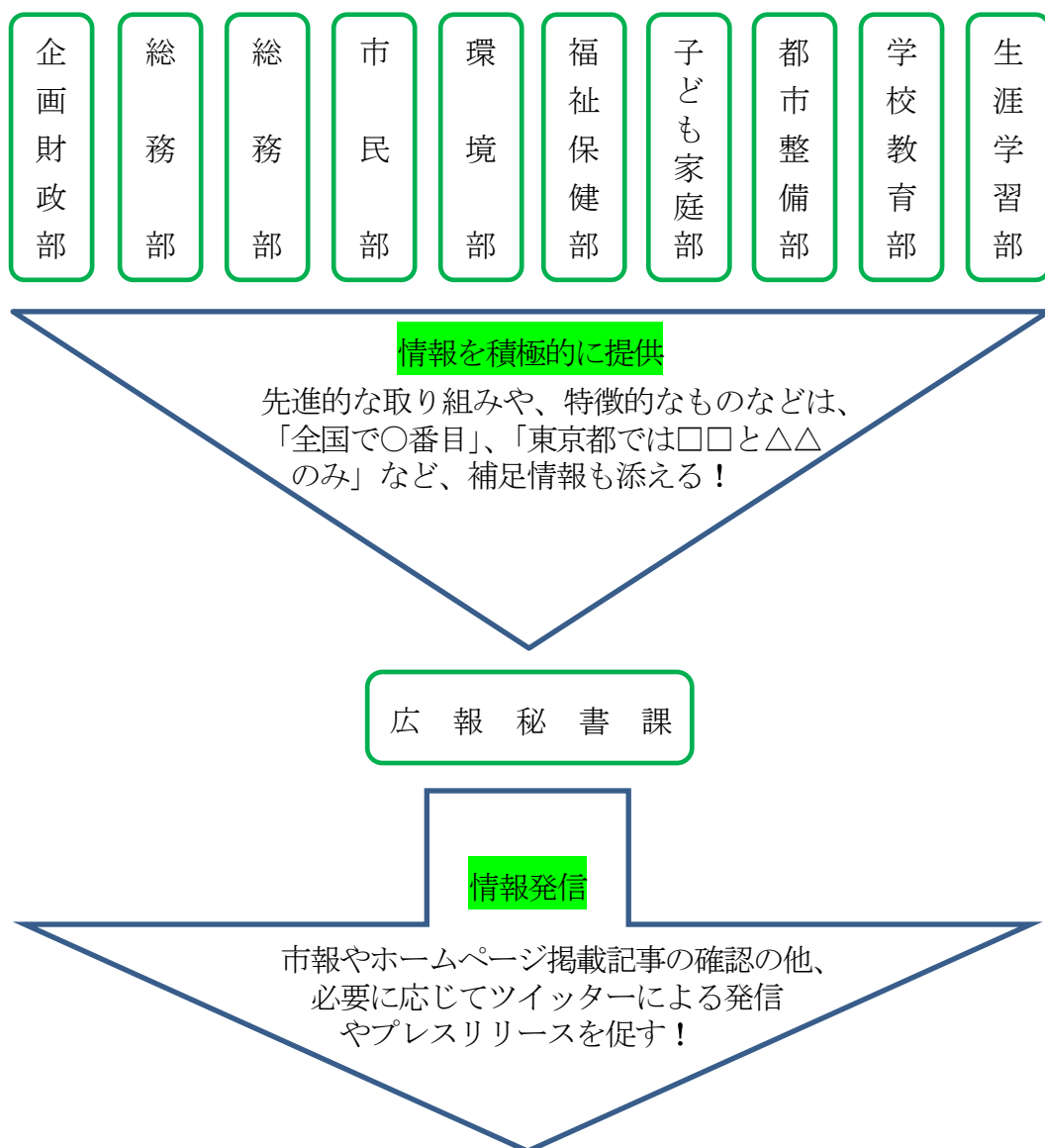
#### ◎ こんな情報はこんなツールで！（時期や内容に応じてツールを活用）

ツール	時 期	内 容
市 報	毎月1日、15日に発行 (原稿提出は約1か月前)	定期的な手続き、制度変更、イベントの開催など広く市民に伝えるべき情報
ホームページ	随時、掲載・更新が可能	市報等で発信した内容に関するさらに詳細な情報 一時的な変更等、随時お知らせすべき情報 イベントや会議の結果等の個別的・追加的な情報
ツイッター	適宜、繰り返して発信	イベントの開催、申し込み状況など随時変化する情報
パブリシティ	市議会定例会ごとに記者会見を開催、プレスリリース等は随時発信	市内外に広く周知したい情報 他自治体と比べて特徴的な事業や制度に関する情報 市としてはじめての事例や新たな取組に関する情報

## 4 推進体制

### (1) 庁内の推進体制

シティプロモーションを効果的に推進していくためには、情報源である各部署と情報発信を行う広報部門との連携が必要です。「3 基本的な考え方」の(2)において、「豊かな自然環境」・「生活の利便性」・「安全・安心」の3つを発信すべき内容として示したところですが、他にも小金井市の魅力として発信できる内容があれば全庁で共有し、積極的に発信します。新たに始めた取り組みや他の自治体と比較して特徴的なものなどがあれば、広報秘書課への情報提供を行い、広報秘書課では、その情報を集約し、時期や内容に応じて適切なツールによる情報発信を行います。



## (2) 観光大使制度のさらなる活用

本市では、市の魅力を広く市内外に発信してイメージアップを図るとともに、多くの市民が愛着と誇りを持てる市とすることを目的として、小金井市観光大使を設置しています。平成27年12月に12人と1グループ、平成30年1月に8人の方に小金井市観光大使を委嘱しています。観光大使の方々には、市が主催するイベント等に参加していただくほか、ご自身の活動の中でも小金井市の魅力をPRしてもらっています。PRしていただく情報は市が提供することとなり、その内容は広報秘書課で作成しています。観光大使の方々をイベント等に行き来していただくことはもちろんのことですが、ご自身の活動の中でPRしてほしい情報を積極的に提供することも、この制度の活用の仕方の一つです。

## (3) 関係団体との連携

観光まちおこし協会や商工会、大学や研究機関などなど、市内にある関係団体とも積極的に情報の交換・共有を行い、連携して小金井市の魅力を発信します。小金井阿波おどり、小金井桜まつり、黄金井名物市、小金井薪能など、市内関係団体等が主催・共催するイベント等により小金井市の魅力を高めてもらう一方、市としてもそれらに関する情報を把握し発信することで連携を図ります。

また、大学等との連携は、ターゲットである若年層が魅力に感じていることや、より伝わりやすい発信方法を知る上で、とても有効であると考えます。包括的な連携協力関係のもと、情報発信について連携を深めていく必要があります。

## (4) 市民との連携

シティプロモーションの推進は、行政や関係団体のみでなく市民とも連携し、オール小金井で取り組む必要があります。地域の魅力のPRには、地域のことを一番よく知っている、地域住民の力が欠かせません。市民が地域の魅力を再認識し、それを積極的に発信したくなるような動機付けが重要です。

小金井を好きな市民、小金井の魅力をよく知っている市民はたくさんいます。その好きなところや様々な魅力を身近な人や来訪者、あるいは訪問先で出会った人などに紹介してもらうことで、小金井の魅力が大きく広がっていきます。

それには、市民ひとりひとりが情報を発信したくなるような動機付けとして、シビックプライド（小金井市に対する愛着や誇り）の醸成が必要です。

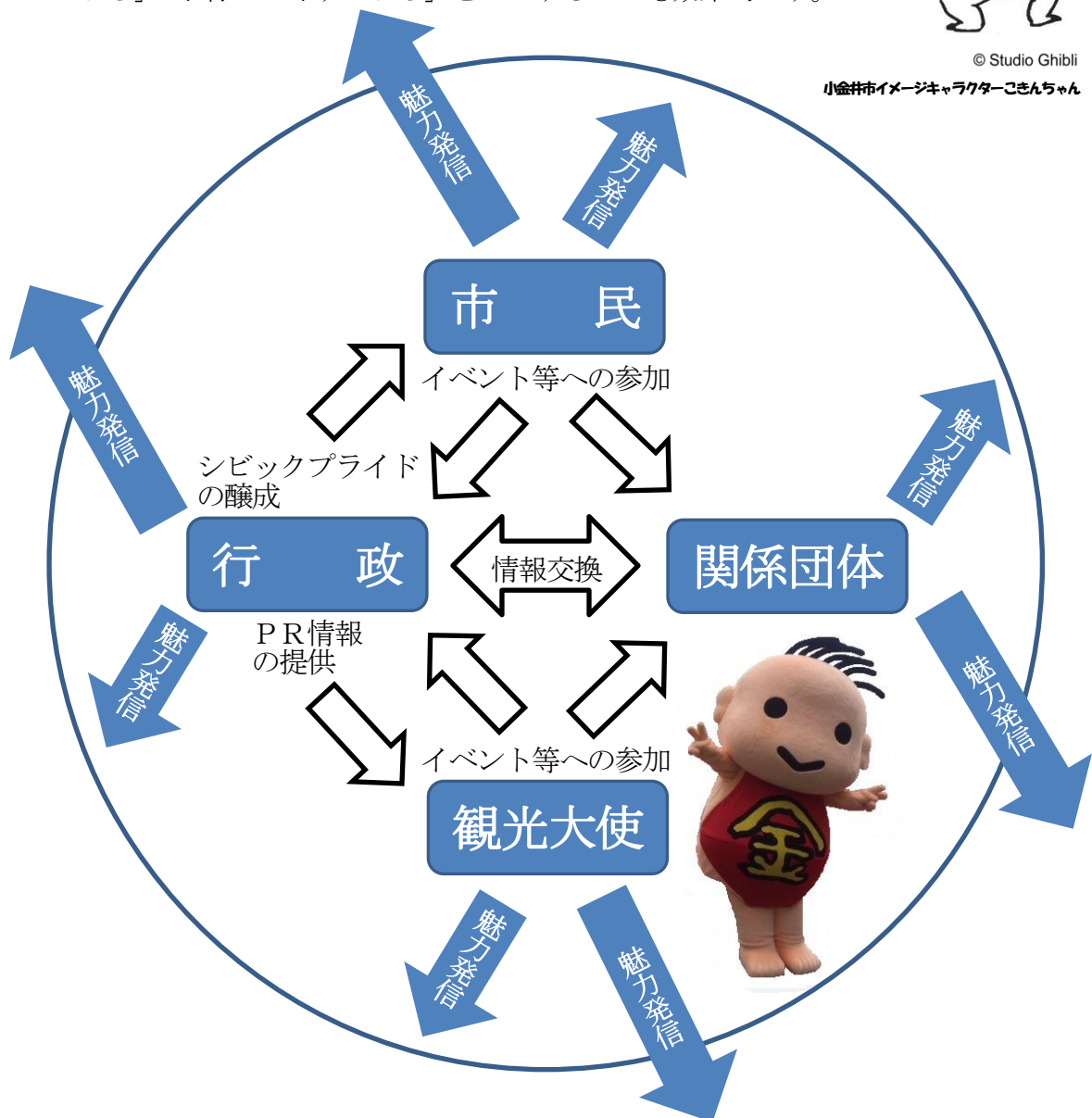
(5) 小金井市イメージキャラクター「こきんちゃん」の有効活用

平成20年に市制施行50周年を記念して生まれた「こきんちゃん」には、制作者である小金井市名誉市民の宮崎駿氏の「子どもが元気な町が発展するんです。」という思いが込められています。ターゲットである若年層は、子育て世代または近い将来子育て世代になる可能性がある年齢層でもあることから、「こきんちゃん」とともに、「子どもが元気なまち」「子育てしやすいまち」をPRすることも効果的です。



© Studio Ghibli

小金井市イメージキャラクターこきんちゃん



◎ オール小金井でシティプロモーションを推進  
本市のイメージキャラクターである「こきんちゃん」も有効活用し、市民・関係団体・観光大使・行政が連携して市内外へ魅力を発信します。

## (6) 今後の推進体制

現状においては、情報源である各部署と情報発信を行う広報部門との連携によるシティプロモーションの推進体制を示したところですが、より戦略的・継続的に推進していくためには、シティプロモーションのノウハウや情報の集積を行う専門部署の新設も検討する必要がある、今後の組織機構の改革における課題です。

### 【専門部署に期待する役割】

- ・ 各部署からの情報提供に頼らず、積極的な情報収集を行う。
- ・ 既存の情報発信ツールの状況に応じた活用にとどまらず、状況の分析やより効果的に推進するための戦略の検討等を行う。
- ・ 各部署に対し、積極的な情報発信を呼びかけるだけでなく、戦略に基づいた専門的な視点からの助言等を行う。

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

基本目標1	小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち		
基本的方向1	魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進		
指標	市街地再開発事業施行完了地区数	担当課	まちづくり推進課
指標の説明	不足している道路・公園などの公共施設を計画的に整備するとともに、良好な生活環境を備えた都市型住宅の供給や、業務施設の近代化を図るなど、安全かつ快適な生活空間を創出する総合的なまちづくりを行った地区数		

【重要業績評価指標(KPI)】

	目標	結果	評価	結果の説明	次年度に向けての課題・展望	委員評価取りまとめ																																									
26年度	1地区																																														
27年度	↓	1地区	C	<p>武蔵小金井駅南口では平成27年9月5日に東京都から認可を受けた武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発組合が設立され、平成31年度の建築工事完了に向けて着実に事業進捗している。</p> <p>また、同駅北口では、地権者の方々が中心となって、平成27年4月に武蔵小金井駅北口駅前地区市街地再開発準備組合を設立し、事業の内容等について検討を行っている。</p> <p>これらに対して、市は、事業進捗に応じて要綱等に基づく支援等を行ってきた。</p>	<p>武蔵小金井駅南口については、再開発組合の予定では、平成28年度中に権利変換計画認可及び工事着手を目指しており、補助金の交付等の支援を行っていく。事業を進めるに当たっては、組合員に対する丁寧な説明を行いながら権利変換の手続きを進めることや、事業進捗に応じた積極的な情報発信に努めていくよう指導を行っていく。</p> <p>同駅北口については、準備組合が引き続き、事業化に向けた検討を続けていくことから、適切な支援等を行っていく。</p>	結果としては、目標値に到達していないためC評価となっているが、次年度に向けての課題・展望の取組に関しては、おおむね順調に推移している。																																									
28年度	↓	1地区	C	<p>武蔵小金井駅南口では、武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発組合が平成29年1月13日に東京都から権利変換計画の認可を受けた。その後、同組合は解体工事等に係る説明会を開催し、平成29年2月から解体工事着手しており、引き続き、平成31年度の建築工事完了に向けて事業を進捗している。</p> <p>また、同駅北口では、地権者の方々が中心となって、平成27年4月に武蔵小金井駅北口駅前地区市街地再開発準備組合を設立し、事業の内容等について検討を行っている。</p> <p>これらに対して、市は、事業進捗に応じて要綱等に基づく支援等を行ってきた。</p>	<p>武蔵小金井駅南口については、平成29年度内に新築本体工事に着手する予定であり、当該工事の円滑な進捗に向けて、補助金の交付等の切れ目のない支援を続けていく。また、当該事業の進捗に応じた継続的な情報発信や、工事において、周辺住民、通行人等の安全の確保に努めていくよう指導を行っていく。</p> <p>同駅北口については、準備組合が引き続き、事業化に向けた検討を続けていくことから、適切な支援等を行っていく。</p>	評価としてはCとなるが、適切な支援を実施しており、進捗は概ね良好である。引き続き周辺地域に配慮し、工夫した取組に期待したい。																																									
29年度	↓	1地区	C	<p>武蔵小金井駅南口では、武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発事業が平成29年7月から新築本体工事に着手しており、平成32年度の建築工事完了に向けて事業を進捗している。</p> <p>また、同駅北口では、再開発を検討していた一部の区域において、任意の共同化が検討されていくこととなり、平成30年3月に再開発準備組合が一度解散となった。当該区域における早期事業化が見込まれる。</p> <p>これらに対して、市は、事業進捗に応じて要綱等に基づく支援等を行ってきた。</p>	<p>武蔵小金井駅南口については、平成29年7月より新築本体工事に着手中であり、当該工事の円滑な進捗に向けて、補助金の交付等の切れ目のない支援を続けていく。</p> <p>また、当該事業の進捗に応じた継続的な情報発信や、工事において、周辺住民、通行人等の安全の確保に努めていくよう指導を行っていく。</p> <p>同駅北口については、駅前における一部区域での任意の共同化にあわせて、地元協議会が引き続き、まちづくりの検討を行っていくことから、適切な支援等を行っていく。</p>	<table border="1"> <tr> <td>渡邊</td> <td>○</td> <td>地元協議会との緊密な連携に力を注いで欲しい。</td> </tr> <tr> <td>小川</td> <td>○</td> <td>いろいろな問題が発生しながらも長年の課題が解決せいでいる姿を見ることができている。</td> </tr> <tr> <td>松本</td> <td>△</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鴨下</td> <td>×</td> <td>南口は進捗がみられるが北口が後退したように感じられる。</td> </tr> <tr> <td>橋田</td> <td>△</td> <td></td> </tr> <tr> <td>本間</td> <td>○</td> <td>事業の進捗に応じた継続的な情報発信を今後も期待</td> </tr> <tr> <td>沼崎</td> <td>△</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小宮</td> <td>△</td> <td></td> </tr> <tr> <td>天野</td> <td>△</td> <td>状況の変化に対応しながら、着実に歩を進めている。</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">合計</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>3</td> <td>△</td> <td>5</td> <td>×</td> <td>1</td> </tr> </table>	渡邊	○	地元協議会との緊密な連携に力を注いで欲しい。	小川	○	いろいろな問題が発生しながらも長年の課題が解決せいでいる姿を見ることができている。	松本	△		鴨下	×	南口は進捗がみられるが北口が後退したように感じられる。	橋田	△		本間	○	事業の進捗に応じた継続的な情報発信を今後も期待	沼崎	△		小宮	△		天野	△	状況の変化に対応しながら、着実に歩を進めている。	合計			○	3	△	5	×	1	<p>目標に向け、状況の変化に対応しながら事業を進めているものの、<b>市民感覚として武蔵小金井駅北口は後退したように感じられる。</b>地元と連携を密にしながら継続した支援等に努めていただきたい。</p>				
渡邊	○	地元協議会との緊密な連携に力を注いで欲しい。																																													
小川	○	いろいろな問題が発生しながらも長年の課題が解決せいでいる姿を見ることができている。																																													
松本	△																																														
鴨下	×	南口は進捗がみられるが北口が後退したように感じられる。																																													
橋田	△																																														
本間	○	事業の進捗に応じた継続的な情報発信を今後も期待																																													
沼崎	△																																														
小宮	△																																														
天野	△	状況の変化に対応しながら、着実に歩を進めている。																																													
合計																																															
○	3	△	5	×	1																																										
30年度	↓																																														
31年度	2地区																																														